

# 第41回 うつのみやこども賞だより

令和6(2024)年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『けものみちのにわ』

水尻 紅美子／作 (BL出版)



令和6年6月2日

読めは  
愉快だ  
宇都宮

宇都宮市立図書館

UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

## ～読んだ本の感想よ～

- 主人公の「風花」の気持ちだけじゃなくておじいちゃん、お母さんの気持ちもつたわってよかったです。
- けものみちは、子どもがいなくなったりしてこわい道だけど、運命の出会いの道でもあったので、すてきなと思いました。
- 風花がおじいちゃんの家に行くと、いつもおじいちゃんが不思議なことを教えてくれることが、すごく不思議でおもしろかったです。
- けものみちでの出来事を通して、風花に新しい友達ができたり、おじいちゃんの昔のことを知れたりして、物語の進み方がおもしろかったです。
- おばあちゃんがけものみちをどう思っているのかわかった時、おばあちゃんが本当にけものみちをきらっていたわけじゃなくて少し良かったと思った。
- 夢の中の出来事と現実をけものみちがつないでいるようで、とてもおもしろかった。
- 風花の苦手な朱里とも仲よくなっていいと思った。

『ぼくたちのいばしょ』 蒔田 浩平／作 (文研出版)

- 気持ちが伝わらないもどかしさから、転校してきたサラダさんに、主人公の春馬くんが秀則といっしょに日本語を教えている姿がとても素敵でした。
- ちがう国籍だからといっていじめられたり、みんながそれぞれのなやみをかかえていて、そのなやみが解決するときには毎回スッキリした。
- ネパールからひっこしてきた子がいろいろなことにちょうせんをしていてよかったです。
- 春馬と秀則とサラダがおたがいに言葉を勉強して相手を理解し合おうとするところがいいと思いました。
- 運動会で多言語放送は外国人にもやさしいと思った。

『今日もピアノ・ピアーノ』 有本 綾／作 (Gakken)

- 全くピアノを習ってなかったのに、あるおじさん（青やぎさん）のおかげで人生をかえてすごいなあとと思いました。
- ピアノについてたくさんのかずなをかんじました。とてもおもしろかったです。
- ピアノ・ピアーノ、あわてず、少しずつという言葉が、ピアノだけでなく生活にも影響して行って、とてもよかった。
- ピアノを弾く老人と出会い、ピアノに本気で取り組むことで海人が成長していくのが面白かった。

『はじまりは一冊の本！』 濱野 京子／作 (あかね書房)

- 何かやってみるといろいろな事につながって、考えが深まるのがとても良かった。
- 「世界に一冊の本」にであい、本にどどんきょうみをもって行って、強引な父ともつきあいかたがわかっていくなど、へんかがすごかった。
- 私も本が好きだけど、ここまで調べたことはありませんでした。柊斗の「好き」をさがす、最後までワクワクする本でした。
- 小学生でも本が作れるということを知り、自分でも作ってみたいとなった。